

たった一冊の 医学書が 私の救世主になった 人生と仕事の転機



京都府
[メディカル整体院] 柔道整復師

石田 靖博 さん

私が医療の世界に入るきっかけになった出来事があります。当時、中学生だった私はムチ打ち症になり整形外科へ行きました。ところが、検査で骨に異常がないことがわかると、シップをはってオシマイでした。なかなか楽にならないので通院を続けていると仮病ではないかとまで言われました。その病院には二度と行かなくなりまし。それから、症状が改善せず半年間苦しみました。それ以来、お医者さんが大嫌いになりました。病人の人格を無視し、検査の数値や客観的に明確な症状によってのみ医療が行われていることを非常に疑問に思いました。その後、紆余曲折がありましたがお医者さんには絶対にできない施術がしたいという思いが日増しに強くなり、私は柔道整復師になりました。

時は流れ、医療の世界に身を投じて今年で10年目を迎えました。その間、1万5000以上の症例に対して施術を行い、様々な患者様と交流してまいりました。中学生のときのムチ打ち症も今の自分なら解決策がわかります。もはや、理論的にも技術的にも、あのお医者さんを超えてしまったのです。でも、私はここで満足しているわけではありません。人間というのはそれぞれ顔のカタチが違うように、身体の状態もひとりとして同じ状態ではありません。更にはその日その日で変化しますから、数学の計算のように方程式にあてはめて答えが出るわけではなく、医療というのは非常に困難なものです。同じように施術を行っても、治ったり治らなかつたりするわけです。また、身体の問題だけではなく、この問題も複雑に絡んできますから、この仕事の責務の重さをいつも再認識しています。医療は人のこの手を救うものでなければなりません。半端な気持ちではできないのです。さて、この世界で、私はひとつの壁に直面してまいりました。私も手技療法家は、薬を全く使用せずに施術を行います。なぜなら、その目的が患者様の本来持つておられる自然治癒力を引き出すことにあるからです。そして、実際に手技は大変な効果があり、副作用もありません。その理論と技術は確立されています。一度でも施術を受けていただければ、それを実感していただけたらと思います。しかし、手技だけでは改善しない患者様がおられることも事実です。私はこの原因を必死に考えてまいりました。そして、ひとつの結論に到達しました。手技というのは、外部から身体に特定の刺激を加えると生理反射が起こり、自然治癒力が高まって生理機能が安定に向かうという身体の法則に基づいて行われます。

ただ、この法則が働くには条件があり、生理機能に一定以上の力が残っていないか、体力が極端に低下している方に外部からいくらか刺激を加えても、本来なら起こる改善反応を得ることができないのです。そのような場合はかえって外的刺激は毒になります。過ぎたるは及ばざるがごとし。刺激を与えすぎた結果、岩のような身体になって苦しんでおられる患者様を、私は数多く見てきました。このように、本当に体力が低下している方に対しては、インソップの童話ではないですが、北風の医療では絶対にダメです。太陽が必要なのです。そう、太陽です。マントを着た旅人はやさしい太陽の光によって変化したのです。医療も同じです。薬物や強刺激によって無理やり症状を押さえ込んではいけません。医療は人のこの手を救う行為です。やさしさが絶対に必要です。

私の臨床人生に核爆発のような衝撃を与えた本があります。それは宇都宮光明先生がお書きになった「光線療法学」です。人はときにたった一冊の本によって人生が変わってしまうのです。そこには、私はずっと悩み続けてきた問題とその解決法が記されていたのです。光線療法は、私が長い間求め続けてきた理想の医療です。ヒポクラテスの神言は次のように言います。「人はそのおのおのが身体の中にひとりの名医を宿し、病はその名医が治す」と、また、「その名医を十分に働かすためには、摂生が必要である」とも、水や食物や空気と同じように太陽光線を浴びないと、その名医、つまり自然治癒力が充分に働かないのです。

科学技術の発達とともに、光線の驚異的な効果が解明されてきましたが、一方で、高度に発達した文明社会において、自然の太陽光線を浴びる機会が著しく制限されていることも事実です。光線療法はまさに、そんな現代社会の救世主ともいえる存在と言えます。人が死という終末に向かって生きていく以上、医療に絶対はありません。だからこそ、医療に従事する者はすべて、人がその限られた時間をより良く生きるためのあらゆる方法を追求し続けなければなりません。そして、光線療法は、そのための明確な答えを示しているのです。

